

ID

様

手術のしおり

この「手術のしおり」は、安心して手術を受けて頂くために必要な事を説明したものです。




入院されるまでにこの「手術のしおり」を読んで、疑問点などはメモのページに記入するなどして、お気軽にご相談ください。

〈おねがい〉

入院時は必ず持参してください。

横浜市立大学附属病院
周術期管理センター

全身麻酔・脊椎麻酔手術用：手術決定～入院までの流れ

	手術治療決定	手術前確認	手術に向けた患者状態の確認・説明・指導	
	診療科外来	患者サポートセンター	周術期麻酔科外来	
入院 までの 流れ	<input type="checkbox"/> 治療方法説明	<input type="checkbox"/> 入院に関する説明と案内 <input type="checkbox"/> 周術期外来の案内 <input type="checkbox"/> 周術期外来受診前の問診 <input type="checkbox"/> 入院に向けた問診	薬剤師	手術室看護師
			<input type="checkbox"/> お薬確認 <input type="checkbox"/> アレルギー確認	<input type="checkbox"/> 手術に関連した情報確認 <input type="checkbox"/> 手術準備方法や手術当日の流れと注意事項説明 <input type="checkbox"/> 手術中の姿勢とスキンケア方法の説明
手術の しおり		<input type="checkbox"/> 患者サポートセンター P5 <input type="checkbox"/> 禁煙について P15 <input type="checkbox"/> 手術前のリハビリについて P17 <input type="checkbox"/> 栄養について P16 該当する患者さんに説明を行います。	<input type="checkbox"/> 薬剤師のお薬確認 P6	<input type="checkbox"/> 手術当日の流れ（手術室入室まで） P9 <input type="checkbox"/> 手術当日の流れ（手術室） P10 <input type="checkbox"/> 禁煙について P15 <input type="checkbox"/> 皮膚の保護について P16 <input type="checkbox"/> 手術前のリハビリについて P17
別紙 資料		<input type="checkbox"/> 入院のしおり		<input type="checkbox"/> 周術期スキンケア方法
検査と 処置	<input type="checkbox"/> 採血 <input type="checkbox"/> 胸部レントゲン <input type="checkbox"/> 心電図 追加で術前検査がある場合があります。	身長・体重計測		説明 
注意 事項			<input type="checkbox"/> お薬手帳持参 サプリメントの内容がわかるものを持参してください。	<input type="checkbox"/> 質問や説明を受けるのに不安がある患者さんは、ご家族の方もご同席をお願いします。
その他		<input type="checkbox"/> お金の相談、療養生活でお手伝いや不安がある方は、ご相談ください。		<input type="checkbox"/> 手術への不安や要望がある方は、お伝えください。

			入院まで準備	入院時
		診療科外来	お家	病棟
麻酔科医師 <input type="checkbox"/> 診察と術中・術後評価追加検査の必要性を判断 <input type="checkbox"/> 麻酔方法について説明	口腔外科 <input type="checkbox"/> 口腔内診察 <input type="checkbox"/> 治療が必要な場合、近隣の歯科医に紹介	<input type="checkbox"/> 手術予定日と内容説明 <input type="checkbox"/> 休薬が必要な場合、休薬説明	<input type="checkbox"/> 適度な運動 <input type="checkbox"/> 感染対策 <input type="checkbox"/> 禁煙 <input type="checkbox"/> 同意書を記入 <input type="checkbox"/> ジェルネイルやエクステ除去 <input type="checkbox"/> アクセサリー除去	<input type="checkbox"/> 術前の説明 <input type="checkbox"/> 絶飲食について <input type="checkbox"/> 術後の安静について
	<input type="checkbox"/> 歯科口腔外科の診察 P6		<input type="checkbox"/> 入院までの準備と注意点 P7 <input type="checkbox"/> 入院前の最終確認 P18	<input type="checkbox"/> 入院後の準備と前日の流れ P8 <input type="checkbox"/> 手術当日の飲食について P8
<input type="checkbox"/> 麻酔について説明書		<input type="checkbox"/> 手術を受けられる方へ		
診察 	診察 	診察 		
<input type="checkbox"/> 術前検査は、麻酔科受付前に済ませてください。	<input type="checkbox"/> 診察の結果、必要な患者さんにはプロテクターを作成します。	<input type="checkbox"/> 休薬指示を守ってください。 <input type="checkbox"/> 休薬できない場合、手術が延期になる可能性があります。	<input type="checkbox"/> アクセサリーが外れない時は、入院時に教えてください。 	入院後、退院までの流れについて別途説明があります。
<input type="checkbox"/> 麻酔に関しての不安や疑問点がある方は、お伝えください。		<input type="checkbox"/> 入院までに手術に関する相談は、診療科医師にご相談ください。	<input type="checkbox"/> 入院後や手術後に関する事は、入院病棟の看護師が説明します。	

もくじ

➤ 周術期管理センターとは	P5
➤ 患者サポートセンター	P5
➤ 薬剤師のお薬確認	P6
➤ 歯科口腔外科の診察	P6
➤ 入院までの準備と注意点	P7
➤ 入院後の準備と前日の流れ	P8
➤ 手術当日の流れ（手術室入室まで）	P9
➤ 手術当日の流れ（手術室）	P10
➤ 肺血栓塞栓症の予防について	P11
➤ 手術後の流れ（帰室後）	P12
➤ 手術後の流れ（手術の痛みについて）	P13
➤ 術後疼痛管理チームについて	P14
➤ 禁煙について	P15
➤ 皮膚の保護について	P16
➤ 栄養について	P16
➤ 手術前のリハビリについて	P17
➤ 入院前の最終確認	P18

周術期管理センターとは

“周術期”とは、手術前～手術後の期間を指します。
周術期管理センターでは、手術患者さんに多職種でかわり、
安心・安全な周術期を過ごせるようにサポートを行います。

- ① 手術前の全身状態の把握と手術に向けた準備
- ② 手術中の全身管理
- ③ 手術後のケア



患者サポートセンター

入院や手術・治療で、ご心配がある場合には、
入院前・入院中・退院後を問わず、看護師やソーシャル
ワーカーがご相談をお受けします。

下記の問い合わせ窓口へお越しください。

主なご相談内容	
お金 暮らし	医療費や生活における経済的な相談をしたい
	健康保険や介護保険、障害者手帳等について知りたい
	仕事の休み方、治療との両立について相談したい
療養 生活	退院に向けて在宅医療や介護のサービスを利用したい
	自宅以外の療養先を探したい
その他	がんに関して（緩和ケア、脱毛・外見ケア、不安、将来を見据えた妊娠への備え等）相談したい
	誰に相談すればよいか分からず、困っている

【問い合わせ窓口】

2階 患者サポートセンター②番「総合相談窓口」

TEL：045-787-2800（代表）

【相談時間】

月曜日～金曜日（祝日を除く）9：00～17：00

手術を安全に行うための確認

薬剤師のお薬確認

◆お薬のアレルギー

- ☐ なし
- ☐ あり

◆サプリメントの内服

- ☐ なし
- ☐ あり

当院では手術前後のサプリメントの内服を原則として禁止しています。

◆手術前に休薬する可能性がある薬剤

- ☐ なし
- ☐ あり → 主治医の指示に従ってください

中止が必要なお薬でも、患者さんの状況によって中止しない場合もあります。

休薬の有無と休薬時期を次回外来受診時に主治医に確認してください。

歯科口腔外科の診察（3階歯科・口腔外科外来）

口歯に関わる合併症予防のため、口腔清掃状態や歯の動揺などを確認します。手術前に近隣の歯科受診をお願いすることがあります。また、周術期に歯科管理料が発生することがあります。

◆歯を保護する装置（プロテクター）準備の有無

- ☐ なし
- ☐ あり（当院で作成した場合、入院後に外来でお渡しします）

薬剤部、歯科口腔外科監修

入院前までの準備と注意点

①風邪をひかないように予防しましょう

風邪症状がある場合は、手術が延期になる可能性があります。**主治医にご相談ください。**

②安全に手術を行うため、

以下の事を済ませてから入院をしてください。

☐ 髭を剃る



☐ アクセサリー



ネイル・まつげなどエクステは、外す

サロンで外す必要があるネイル・エクステは、入院前に必ず外して下さい。

③原則入浴は、来院前に済ませてきてください。

入院日に病棟のシャワーが使用できない場合があります。シャワーは、平日17時まで、土・日・祝日は、基本的にシャワーを使用できませんので、あらかじめご了承をお願いします。

④順調に手術後回復するため、入院前から身体の準備をしましょう

☐ 禁煙しましょう（15ページ）

☐ 手術に向けたスキンケアをしましょう（16ページ）

☐ バランスの良い食事をしましょう（16ページ）

☐ 体力をつけましょう（17ページ）

入院後の準備と前日の流れ



入院後に病院からお渡しするもの

- ☐ 手術着
- ☐ 弾性ストッキング（必要な患者さんのみ）
肺血栓塞栓症予防について 11ページ参照
- ☐ 手術直後使用するオムツや腹帯（必要な患者さんのみ、手術室でお渡しします。）

患者さん自身で準備するもの

- ☐ 入院のご案内を参照
手術後は点滴などの管や傷があるため以下の様な物品が必要です。
- ☐ 吸い飲みまたはストロー付のコップ
- ☐ 前開きのパジャマ
- ☐ 手術内容に応じて必要な物品（外来や入院病棟で詳しく説明があります）
- ☐ 手術部位に応じて、臍の処置や除毛する場合があります。
- ☐ 入浴が必要な患者さんは、看護師からお伝えします。
- ☐ 医師の指示により、寝る前に下剤や安定剤を内服することがあります。
- ☐ 病室を離れる時は、看護師にお声がけください。

メモ：

不明な点がありましたら入院したに遠慮なくお尋ねください。

手術当日の流れ（手術室入室まで）

①手術室出発前の準備と最終確認

- アクセサリー類や化粧・コンタクトレンズ・かつら
- 入れ歯などを外します。

めがねや補聴器が必要な場合は、着用が可能です。



- 手術着に着替えます。
 - －手術着の下はパンツのみでお願いします。
 - －寒いときは上着を羽織ってもかまいません。

- 手術部位の印を確認します。

医師が手術部位に皮膚用マジックで記入します。

*頭頸部手術や傷が正中の場合は、手術部位の印をつけないことがあります。

病棟看護師（医師）と一緒に手術室に移動します。

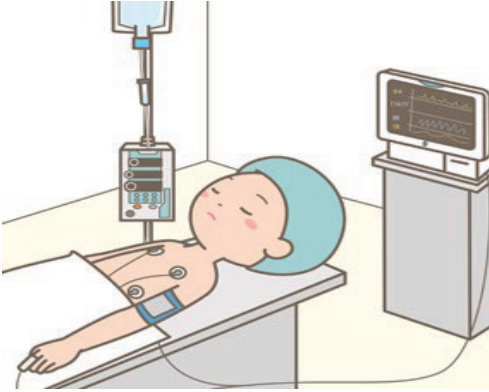
②手術室入室と本人確認

- 手術室で本人確認を行います。
 - ①ネームバンドのバーコードを読み取ります。
 - ②お名前をフルネームでお答えください。
- 手術部位と同意書の確認を行います。



手術当日の流れ（手術室）

③麻酔の準備



- 心電図、酸素濃度測定のスール、血圧計をつけます。
- 点滴をします。

④麻酔開始・手術開始

- 酸素・麻酔薬を投与し、麻酔をかけていきます。



全身麻酔



局所麻酔

⑤手術終了・麻酔終了

- 手術が終了し、麻酔薬の投与を終了します。
- 状態の安定を確認し、ベッドで病室に戻ります。
- 酸素マスクや点滴などの管が付いた状態で戻ります。

痛みや吐き気などの症状があれば、看護師や医師に伝えてください。



肺血栓塞栓症の予防について

肺血栓塞栓症とは？

エコノミー症候群とも呼ばれます

足の静脈などにできた血栓が、肺の血管につまる病気です。

手術患者さんは肺血栓塞栓症になりやすい状態にあります

①手術で血液が固まりやすい状態に変化する。

②寝たきりの状態で足の血の巡りが悪くなる。

そのため足に血栓ができて肺血栓塞栓症の危険性が高まります。

肺血栓塞栓症は命に関わることもあるので、予防が大切です。

当院の肺血栓塞栓症予防の取り組み



予防が大事！

①手術前の検査

血栓の疑いがある場合、超音波・造影CTなどで調べます。

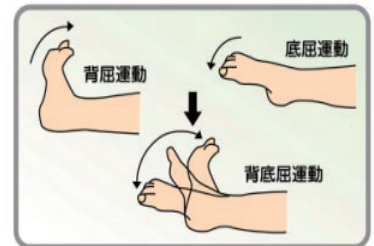
②予防法

患者さんごとに危険度を判断し、必要な予防を行います。

1) ご自分でできる予防

足首の曲げ伸ばしにより、血栓ができにくくなります。

ベッドでは、時々足首を動かしましょう。

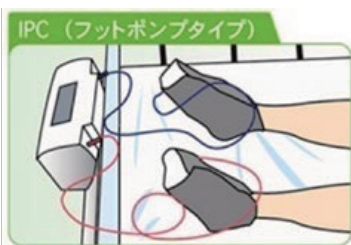


2) 器具による予防

□**空気マッサージ器 (IPC)**：(手術中から自立歩行するまで使用)
ふくらはぎや足の裏を空気の力でマッサージし、血液の流れを作ります。

□**弾性ストッキング**：

締め付けの強いストッキングで足の血行をよくし、血栓を防ぎます。



3) 薬による予防

肺血栓塞栓症の危険性が高い場合、**血液を固まりにくくする薬**を使うことがあります。

※息苦しさ・胸痛・動悸・足の痛みなど、血栓塞栓症の症状が出た場合には、医師・看護師に伝えてください。

手術後の流れ（帰室後）



手術後について

手術後は、積極的に身体を動かします。

手術の内容によって異なります。
入院後、医師や看護師から説明があります。

＜身体を動かすことによる効果＞

- 痰を出しやすくしたり肺を膨らませると、呼吸が楽になります。
- 血液循環が改善して、傷の治りを促進させます。
- 腸の動きを活性化させます。
- 筋力低下を防ぎ、日常生活への復帰を助けます。

＜注意点＞

- 手術後は、身体に大切な管がついています。
（酸素、点滴、尿の管、痛み止めが流れている管など）
- 手術や麻酔の影響で、ふらつき・転倒する危険があります。
歩行をする際は、安全のために看護師が付き添います。

メモ：

手術後の流れ（帰室後）



手術の痛みについて

手術後の鎮痛薬は、傷の大きさや部位に応じて麻酔科医師が選択します。

＜鎮痛薬の種類と使用間隔＞

- 点滴や内服薬
6～8時間の間隔を空ける必要があります。
- 自己鎮痛法（PCAポンプ）
患者さん自身がボタンを押すことで痛みを調整します。



＊初回は、使用前に看護師より使用方法の説明があります。
ナースコールでお知らせください。

気持ち悪い・足に力が入らない（痺れ）・痛みが軽減されないなど、気になることや自身でボタンが押せない時は病棟看護師に教えてください。

術後疼痛管理チーム



術後疼痛管理チームは、麻酔科医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士が協働し、手術後の痛みや吐き気などの苦痛の緩和を行います。

<対象者>

- ・ 鎮痛薬が持続投与されている方。
- ・ 自己調整鎮痛法（PCAポンプ）を使用している方。
- ・ 麻酔科医師が必要と判断した方。

<診療方法>

術後3日間、チーム担当者が病室にうかがい、痛みの程度やお薬の副作用があるか確認を行います。

* 痛みの表現方法

痛みの程度をお尋ねします。

以下のイラストを参考に 0～10の数字で教えてください。



禁煙について



手術中の安全や手術後の合併症の発生を減らすため、早めの禁煙をおすすめしています。

禁煙期間が長ければ長いほど、合併症の予防に効果があります。

3週間以上の禁煙をお願いします



喫煙が手術に与える影響

電子タバコでも影響があります。



- 手術では、人工呼吸や傷の痛みなどが加わり、痰が出しにくくなります。
- タバコに含まれるニコチンや一酸化炭素・タールは、痰を増加させ、空気の通り道（気道）を狭くし、気管の異物を排除する運動を抑制し、痰を出しにくくします。
- 痰が出せないと、肺が膨らまず、酸素が十分に手術部位に届かなくなり回復が遅れたり、感染を起こす可能性が高くなります。
- 肺や手術部位で炎症が起こると、術後の回復が遅れ入院期間が長くなります。

禁煙期間	効果
2日～3日	血液中の酸素運搬を阻害する血球が減り、身体へ酸素を運ぶ能力が改善し始める。 気管の異物を排除する運動が改善して、痰が出し易くなる。
1週間～2週間	痰の量が減ってくる。
★3週間★	
4週間以上	手術後の肺炎など、呼吸の合併症が起こり難くなる。
6週間～8週間	細菌などへの抵抗力が増す。

参考文献：周術期禁煙ガイドライン：2015年3月版 日本麻酔科学会

【禁煙外来相談】

かかりつけ医相談窓口（患者サポートセンター）2番窓口

※お近くの禁煙外来のある病院を紹介いたします。

皮膚の保護について



皮膚が乾燥するとバリア機能や弾力性が失われます。
バリア機能や弾力力が低下すると手術で用いるテープや薬液、
手術姿勢による体圧やズシなどの刺激に対して、抵抗力が低下して皮膚トラブルを起こす可能性があります。
お家でスキンケアを行って健康な皮膚状態を保ちましょう。

お家でのスキンケアポイント！

- ・ 擦らずに泡で全身を洗って、傷つけずに清潔を保つ。
- ・ 保湿剤で皮膚の乾燥を予防する。
(保湿剤は、お家にあるもので構いません。)

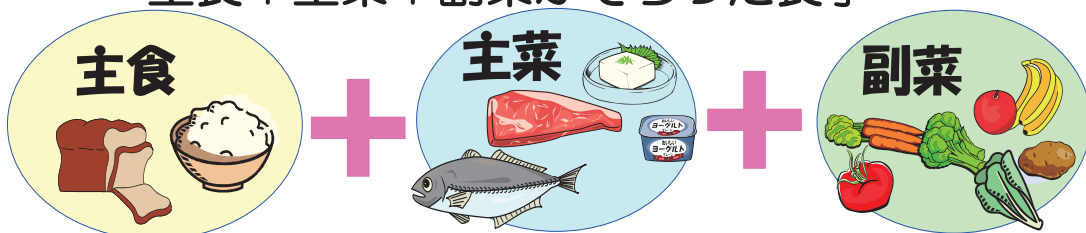
***手術前日入院の場合は、原則ご自宅での入浴をお願いします。**

栄養について

手術前の栄養状態が良くないと手術後の回復に時間がかかることがあります。低栄養が疑われる場合は、主治医の指示のもと栄養相談や指導を行う場合があります。

栄養バランス良い食事

主食＋主菜＋副菜がそろった食事



※疾患により、食事に制限のある方は医師の指示に従ってください。

低栄養予防

- 1日3食きちんと食べる
- 主食＋主菜＋副菜をバランスよく食べる
- 食べられない場合は、回数を分けて食べる
- よく噛んでしっかり食べる
- 適度に体を動かす

栄養部
監修

手術前のリハビリについて

手術前から手術に向けて体力をつけることが、手術後の合併症予防に重要です。手術前からリハビリテーションを積極的行いましょう。

簡単な運動と呼吸の練習

①ウォーキング

1日20～30分を目安に、週3～4日を目標に行いましょう。
話しながら歩ける～軽く息が弾む程度のスピードが適切です。

②室内で行う筋力トレーニング

(1)～(3)の運動をそれぞれ20回1セットとして1日1回行います。
慣れてきたら3セットまで増やしましょう。
疲労や筋肉痛が強い場合は症状が消えるまでお休みしてください。

(1) かかと上げ (2) 椅子からの立ち座り (3) 椅子座位で膝伸ばし



③手術にむけた呼吸の練習

手術の痛みや麻酔の影響で、手術後に呼吸が浅くなり肺炎などのリスクが高まる場合があります。手術前に深呼吸の練習をしましょう。

(1)胸郭のストレッチ



息を吐きながら行います

(2)深呼吸の練習



- ・よりかからないように椅子に腰掛ける
- ・お腹に手をそえる (お腹の動きを確認)
- ・ゆっくりと鼻から息を吸う (お腹が膨らむ)
- ・長めに口から息を吐く (お腹がしぼむ)



具体的な方法は、左のQRコードから動画をご覧ください
(URL:<https://youtu.be/b4HkjuqhbQU>)

リハビリテーション部監修

入院前にご自身で最終確認しましょう

- ☐ 麻酔・手術・その他の同意書は持ちましたか？
- ☐ 入院前に止めるお薬を医師に確認してやめましたか？
中止を指示されたお薬を止めていない場合は、主治医か医師にご相談ください
- ☐ 禁煙はできましたか？
- ☐ 発熱、咳、痰などの症状はありませんか？
風邪をひいている場合は、主治医か医師にご相談ください。
- ☐ 本冊子を入院時に持参してください。

＊主治医、診療科医師への相談は、病院代表電話番号から
各診療科外来までご連絡ください。

〒236-0004

神奈川県横浜市金沢区福浦3丁目9番地
電話番号：045-787-2800（代表）

メモ：

発行元：横浜市立大学附属病院
編集：周術期管理センター
令和5年9月 発行

